

第105回全国高校野球選手権青森大会

4強きょう激突



第105回 全国高校野球選手権青森大会は25日、弘前市はるか夢球場で準決勝2試合が行われる。高校球児の夢舞台、阪神甲子園球場への切符を懸けた戦いも残り2日。4校が決勝を目指して激突する。

準決勝に勝ち上がったのは、2010年以来13年ぶりの栄冠に挑む工大一、2年ぶりの優勝を目指す弘学聖愛、20年の代替大会以来の頂点を狙う青森山田、連覇が懸かる春季東北大会王者の八学光星。いずれも私立校で、春季青森県大会と同じ組み合わせとなった。

25日は午前10時から工大一―弘学聖愛、午後0時半から青森山田―八学光星が行われる。27日午後1時開始の決勝に進むのは果たしてどの2校か、戦いぶりが注目される。（取材班）

【弘前はるか夢】
 ▼準決勝
 工大一―弘学聖愛（10・00）
 青森山田―八学光星（12・30）



高校野球 速報

チーム	試合数	安打	長打			打率	打点	三振	四死球	犠打	犠飛	盗塁	失策	併殺	残塁	総得点	総失点
			本	三	二												
工大一	3	86	33	0	0	5.384	20	2	13	12	6	4	1	24	27	5	
弘学聖愛	3	89	32	2	2	8.360	23	13	22	12	13	1	2	22	26	8	
青森山田	3	82	33	0	4	7.402	28	11	25	8	17	1	2	26	32	1	
八学光星	3	88	36	5	1	9.409	33	10	20	4	4	1	0	25	33	9	

光星総合力で優位 青森山田 光る堅守

今春の県大会準決勝と同じカード。今春は八学光星が投打で圧倒し、8-0の7回コールドで青森山田を下した。

八学光星は春の東北大会で昨夏の甲子園覇者・仙台育英を破って優勝し、総合力で優位に立つ。今大会、打線は3試合連続

2桁安打、2桁得点をマークするなど、破壊力は抜群。中軸に座る藤原天斗は本塁打を含むチームトップの8打点を誇る。投手陣はいずれも2年の岡本琉瑛、洗平比呂の左腕2枚看板が実戦経験豊富だ。

春の雪辱を期す青森山田は、ここまでわずか1失点と堅守が光る。最速147km/hの直球を武器とする三浦遼大、多彩な変化球を操る関浩一郎ら投手陣の踏ん張りか勝負の鍵を握ってきただ。攻撃ではトップバッターの三浦、対馬陸翔ら足を使える選手も多く、盗塁などを絡めた攻撃で得点機をつくり出せるか。

立ち上がり修正したい

八学光星・仲井宗基監督 夏の大会はどんな形でも勝てばいい。日替わりでラッキーボーイが出てくるようになれば勝ち上がりできると思う。プレッシャーからか、立ち上がりでチームとしてまとつとところがあるので、そうならないように修正していきたい。